



太多線

開通通算100年

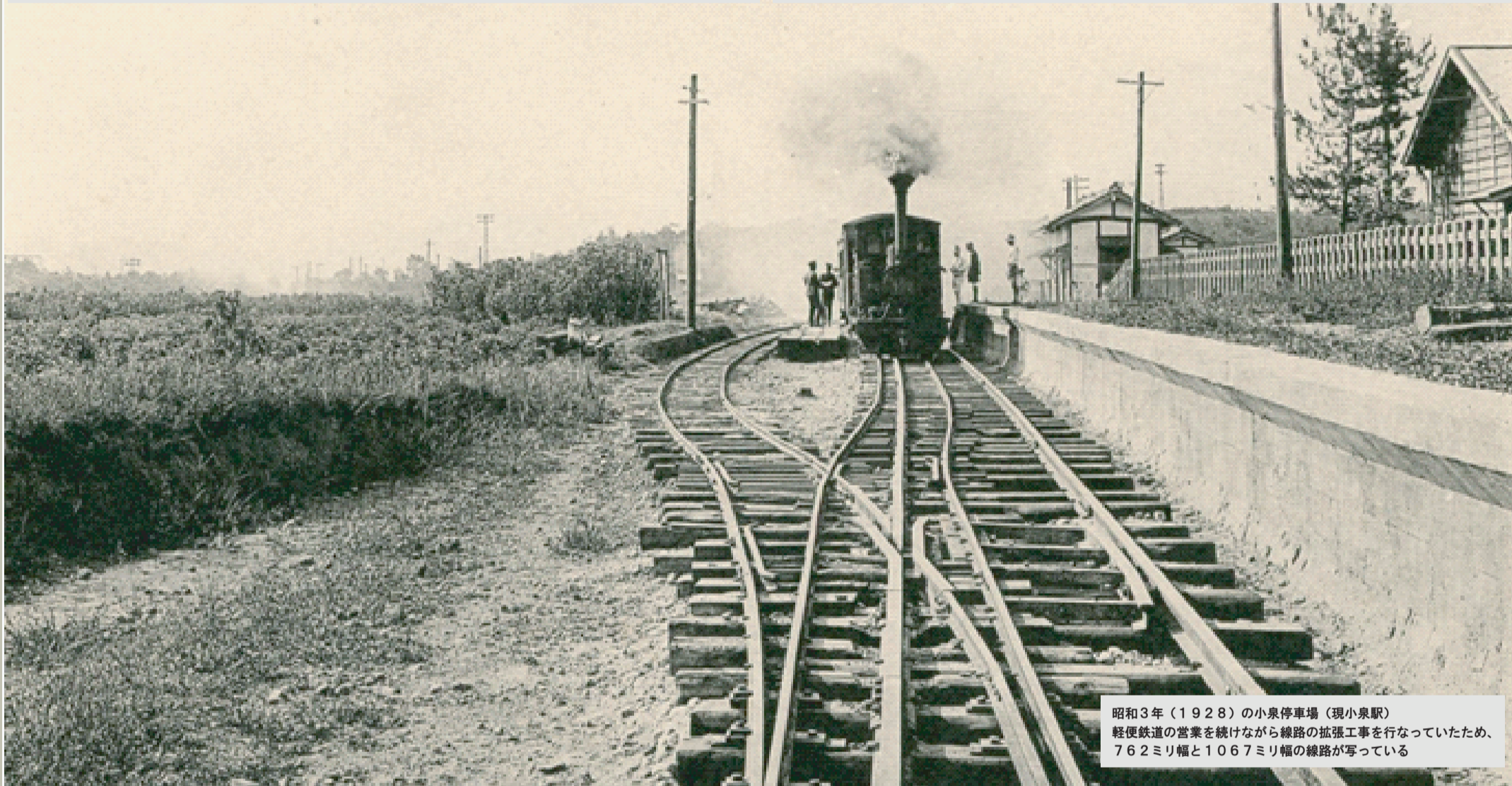
太多線は、東濃鉄道株式会社（初代）の運行路線を一部買収して作られた路線です。東濃鉄道が【新多治見—広見】間を開業した大正7年（1918）から通算すると、2018年は太多線開通100年にあたります。今回は太多線や東濃鉄道の変遷をご紹介します。

明治後期、御嵩と多治見を鉄道で結ぶため東濃鉄道株式会社^{注①}が設立されました。東濃鉄道は大正7年（1918）に【新多治見—広見（現可児）】2年後に【広見—御嵩】を開業しました。鉄材の高騰により軽便鉄道^{注②}となりました。

東濃鉄道 設立と 軽便鉄道

高山線が美濃太田まで開通したのを期に鉄道省は【広見—美濃太田】を竣工、また東濃鉄道の【新多治見—広見】を買収しました。軽便鉄道の営業を続けながら線路幅をひろげる工事を行い、昭和3年（1928）太多線が開通しました。

太多線の 開通



昭和3年（1928）の小泉停車場（現小泉駅）
軽便鉄道の営業を続けながら線路の拡張工事を行っていたため、
762ミリ幅と1067ミリ幅の線路が写っている

その後の 東濃鉄道

【広見—御嵩】路線のみとなった東濃鉄道は、名古屋鉄道・大同電力^{注③}と共同で東美鉄道株式会社^{注④}を設立し、【伏見口（現明智）—八百津】を開業しました。名鉄と合併後、広見～御嵩間は広見線に編入、伏見口～八百津間は八百津線（平成13年（2001）廃止）となりました。広見～御嵩間は現在も広見線の一部として運行しています。

注① 東濃鉄道株式会社（初代）：大正4年（1915）～大正15年（1926）
上之郷村（現在の御嵩町東部）の平井新四郎を社長として設立 現在の東濃鉄道株式会社とは無関係
注② 軽便鉄道（けいべんてつどう）：線路の幅が狭く、機関車・車両も小型の小規模鉄道
注③ 大同電力：後の関西電力
注④ 東美鉄道株式会社：大正15年（1926）～昭和18年（1943）
平井信四郎を社長として設立 昭和18年（1943）名古屋鉄道へ合併

当初の停車駅は小泉・姫・広見（現可児）でしたが、現在は小泉・根本・姫・下切・可児美濃河合の6駅となり、通勤・通学の足として活躍しています。

太多線の 現在



平成30年（2018）の小泉駅

郷土資料室へ

郷土のことについて調べるなら

多治見市に関する資料や、皆様から寄せられた文書や記録などを整理し、保管しています。資料は皆様の調べ学習や研究などにもご利用いただけます。地域の歴史に関するご相談は、郷土資料室までどうぞ。皆様からの郷土資料のご寄贈や情報の提供もお待ちしております。

多治見市図書館郷土資料室

【場 所】 多治見市豊岡町1-55 ヤマカまなびパーク4階 JR多治見駅より徒歩5分
【電 話】 0572-23-3783
【開室時間】 火～土曜日 10時～17時（日・月・祝日・年末年始は休室） ※図書館とは開室日・時間が異なりますのでご注意ください